

箕輪町地域包括ケアシステム推進協議会

(兼 地域包括支援センター運営協議会)

令和7年2月26日(水)午後1時30分～3時00分

箕輪町役場 2階 大会議室

1 開会

2 福祉課長あいさつ

3 会長あいさつ(秋葉会長)

4 協議事項

① 地域包括ケアシステム推進協議会の位置付け 資料①

② 地域包括ケアの進捗

地域包括支援センター各事業の取組み/次年度の取組み 資料②

③ 意見交換

<主要な論点>

○常会未加入者の増加

常会や区への未加入者が増え、地域の取組みが伝わりにくい状況。外国人やアパート入居者が増えており、情報発信の工夫が必要。

○人材不足への対応

医療・介護の人材不足が深刻で、十分な対応が困難。介護職の魅力を高める情報発信や、資格取得支援の充実が求められる。具体策として資格取得期間の賃金補助、医療福祉従事者への補助金支給の可能性など

○身寄りのない人への対応

家族と疎遠な高齢者が増え、ほっておけない状況から本来業務でない範囲までケアマネの負担が拡大。地域全体での支援体制を検討する必要がある。

○希薄化する関係の中で必要な情報をどう「キャッチ」してもらうか

常会未加入者への情報伝達が難しくなる。多様性の重視で地域のつながりは希薄化せざるを得ない前提でどう必要な情報を出し、キャッチしてもらうかが大事。

○近所での見守りの重要性

近隣住民の関係や見守りとして回覧板の活用があるが、対話の機会が減少、顔を合わさずにポストに入れてほしいという人も。

○地域ケア会議の充実

住民の声を拾い上げ、より実効性のある地域ケア会議を目指す。

包括的な支援の再検討 10年の取組みを振り返り、住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みを再構築する。

会議録

委員：どこの市町村でも問題になってきている区や常会の未加入者や退会してしまう人。町全体では70%の方が入っている。外国人やアパート入居者の方が増えているため、町での取り組みを伝えられないのが問題点だと思う。町の窓口でも入るようにと話があるようだが、議会内でも取り組んで常会等に加入してもらい取組を知ってほしい。

委員：現場にいるので、人材不足はすごく感じる。個別に寄り添って対応していきたいが、向き合って対応していく時間が少ない。医療・介護の部分をどうにかできたらいい。BCPについても、福祉避難所になっていることは承知している。どのように活動するのか、ここにある物では足りないかも…と思うこともある。町から支援物資がくるか。不足したときはどうするのかといった話を他の事業所と一緒にできればいい。

委員：盛沢山な事業。すべてがつながって顔の見える関係がつかれるシームレス支援ができる。身寄りのない方（家族はいるが疎遠）が増えている。身寄りのない方は経済的余裕がなく、もれなくケアマネが呼ばれる。シャドーワークの部分をケアマネの負担と考えてはいけない。社会全体の課題として検討していかないといけない。サービスに繋がらないけど、定期的にみていかないといけないケースが社協にくる。予防の方は、介護の方と同じ支援をしても加算がつかない。医療と介護の一体の課題の中で、本当の意味の地域ケア会議ができていないとはどういう意味か？

事務局：その方が望む生活を送っていくために社協COやサポーターに協力してもらいながらインフォーマルや社会資源全体でどう支えていけばいいか。個の課題から地域的な課題をどう捉えているか。みんなで考えていくことが本当にできていたのかと思うことがある。皆の声が拾い上げられる地域ケア会議にしていきたいと思っている。

委員：網目のようにつながりあって、生活している人を支えるということで安心して暮らせる町だなと実感している。町営住宅を抱える地区を担当している。4月に台帳をもらうが、転出・転入している人について、民生委員にもこんな方が入居するなどの情報をもらえると嬉しい。高齢者の1人暮らしや心配な方もいる。気が抜けないこともある。近所の方も一緒にその方の見守りをしている。そういった方とのコミュニケーションも大切にしていきたい。

委員：地区や近所の集まりから大きな集まりになっていくことはいいこと。人には知られたくない方もいる。回覧を持っていても挨拶や会話ができるが、ポストに入れてほしいという人もいる。近所で知っているということはいいいこと。見守りもできる。

委員：3、地域全体で高齢者を支える整備について、地域福祉コーディネーターとして活動してきた。活動を開始した10年前は、地域とのかかわりが希薄になっていた時期。困っていることもあるが声を上げづらい。困ったと言ってくれれば助けることができるという状況で仕組みづくりを検討してきた。

生活支援サポーターを合わせて育成してきた。独自で活動している人もいる。効果的な活動ができてないが正しい表現。10年活動していく中で、1役総活躍時代。どうやって住み慣れた地域で住んでいることができるか再検討する。

委員：町として色んな活動をしている。問題点は、発信していても情報をキャッチできるか。常会に入っていない方は疎遠になっていく。回覧板も回らない。

どれだけ多くの方にキャッチしてもらえるか。社会は多様性。希薄化も時代の流れ。希薄化した時代の中で、どのように情報を発信していくか。若者に、介護職に興味をもってもらえるか。就労の助成はどのようなものか。

事務局：資格取得の費用を助成していたり、特定の資格を持ち、町内でその仕事につくIUターン一律30万円くらいでている

委員：若者がぜひ興味が湧く情報をお願いしたい

委員：病院もたくさん課題もある。リハビリも入退院もできない。コールにこたえきれずに走り回っている。赤字になってボーナスもでないとなれば辞めるしかない。

人材については、課題ある。医療介護はもちろん。高齢者だけでなく、若者も健康に対する教育がないので糖尿病も増える一方。透析や脳梗塞の患者も増える。

また、身寄りのない方が増えている。誰の意思を確認して最期を迎えればいいのかと思う。困ったら包括へ相談はしている。世帯全体でみると重層化している。高齢者だけでなく、包括も巻き込めないかなと思う。もっと生かされた計画だと思いいなと思った。

ケアプランの適正化というと、サービスが不要なのではという印象。介護1、2の方はサービス足りない人は看多機か…と思う。上限の範囲内ではサービスが足りない人もいる。横出しの部分を町が補助する制度もあるといいな

委員：独居の方の支援をした中で、生活の裏側を見た。亡くなる前日に訪問してきたのに、助けられなかったなとふと思いつくことがある。いろんな方に協力してもらった。

のぞみの会に今日午前中参加した。その中で、漆戸委員が話をした内容を全く同じことを言っていた。回覧板が会話のきっかけになっていたが、ポストに入れていってくれと言われて会話ができなくなったなど。

珍しいことばかりだったが勉強になった。MCIのうちに、早めに見つけてもらい声をかけてほしい。受け取る方も「じゃあ病院いってみようかな」と日常会話でできるといい。

去年、近所の方で奥さんが心配だと相談があったので包括につなげた。すぐ対応し

てもらい、ケアマネがつきお世話になっている。

委員：人材の関係やどう繋いでいったらいいのか、どう発信していけばいいのか、何かできることがあるのではないかと不安になることがある。若い方に興味を持ってもらうにはどうしたらいいか中途で入ってくる人たちに対して、すぐ資格が取れない。取れても初任者研修、基礎研修になる。それも1か月以上かかるので、その間の人件費の助成してもらいたい。国や県からではなく、町から高卒の方への支援もしてもらえると嬉しい。

事務局：介護医療人材が現状を上限として増えることが考えづらい中で、これから85歳以上の医療介護を必要とする高齢者が、2035年には2020年比で1.4倍のになる。どうしたらいいのか分からない状況。人材の確保について、もっと具体的な話を聞いた最優先で取り組みたいがどうか。

委員：育休あけて復帰したくても、子供を預けられなくて復帰できないと聞く。箕輪町は病児保育もあるが、祖父母へ預けられないし、病児保育使っている人は使っているが…未満児保育の枠が足りているか。

委員：本当になんでもいいという事であれば、医療福祉関係者に、月1万くれれば売りになる

委員：出た意見は議会へ意見を挙げていきたい。これまでは、2人目が生まれた時は上の子は保育園で預かれないと言った話があったが、来年からは廃止されると聞く。医療福祉関係者に補助金は出ないのかと意見を出すことは可能。介護福祉の仕事は、きつくて汚い、給料は安いというイメージがあり、高校生の興味が少ないと聞いた。新しい人が入ってこず、平均年齢も上がっているときく。

委員：働きながら資格とれないのか？と問い合わせある。(町の支援で) そういったことができることを全面にアピールできれば。本当に簡単な研修なら動画を一日見せおしまい、となるがそれでは難しい。介護に入ってくるには1か月は勉強をしてもらいたい。人材不足をそこでも感じる。

事務局：実際に、国や県からお金をもらえるわけではなく、町単独の税金を使うこともある。町民の皆さんからいただいた税金を、医療介護関係者に支払う、また医師ならいくら、事務ならいくら・・とするのか、難しい議論もあるし、設計もある。雇用形態や職種、町内外在住、条件は様々だが、事務職まで入れての人数がまずは不明。クリニックごとにどのくらいの職員がいるか分かるのか？

委員：個々は分からない。上伊那でもまとめてない。個別に聞くほかない。

事務局：データがあれば試算も考えられる。制度設計は簡単ではなさそうだが、箕輪町に魅力を持ってもらういいことだと思う。

委員：ふるさと納税もある。福祉医療介護部門にも充当してもらえないだろうか。